

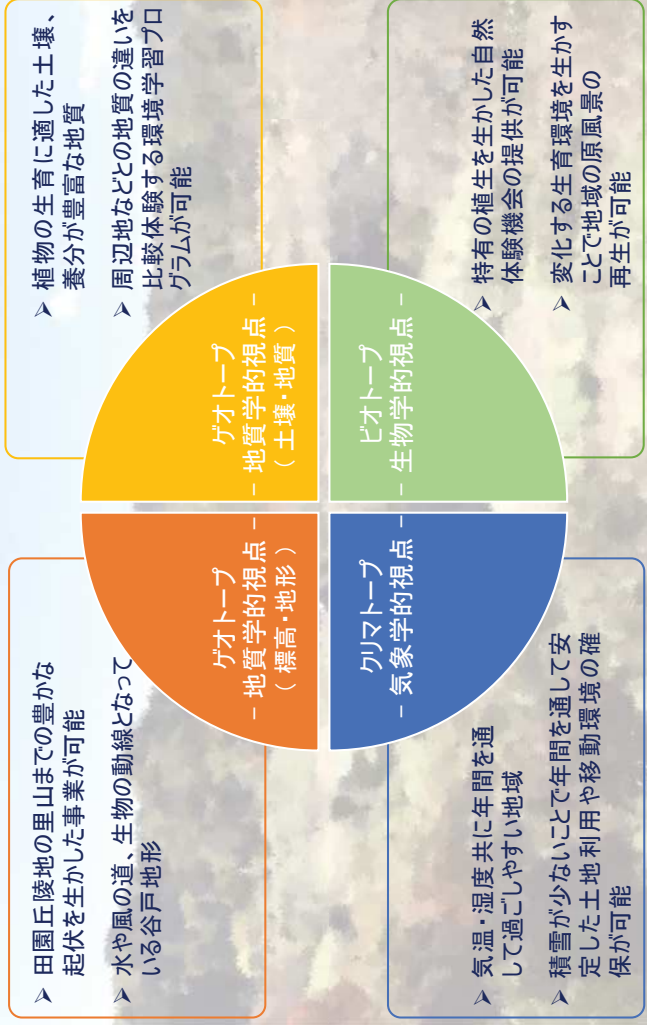
白河関の森公園 基本構想

概要版

令和4年 3月

白河市
産業部観光課

白河特有の自然環境を生かした公園整備



まちづくり視点の課題整理

<p>地元への帰郷を促進する魅力の創出</p> <p>若い世代の地元への帰郷を促進する白河市独自の自然の豊かさを活用した新たなライフスタイルの創出や安心して子育てができるようなまちづくりを構想していく必要性があります。</p>	<p>自然を生かした取り組みの必要性</p> <p>白河市の土地利用方針も踏まえ、関の森公園の整備にあたっては、白河の良さを活用した「グリーンツーリズム」などの機能が求められています。</p>
<p>雇用創出を促す取り組みの必要性</p> <p>白河での雇用創出に寄与し、白河の歴史・伝統等への愛着や誇り、人材育成に寄与し、既存の地域資源を活用した持続的で住みやすいまちづくりの計画が求められています。</p>	<p>歴史資産等を活用した観光動線の整備</p> <p>白河関跡等、周辺の歴史資産との動線を考慮した観光体験、1日公園で楽しめる体験、自然と調和し、宿泊を伴う体験での活用など、様々なポテンシャルを有しています。</p>
<p>交流機能のさらなる強化</p> <p>これまでの歴史を踏まえた、人と人との交流、世代間の交流、田園と都市の交流など新たな交流創出に寄与する計画が求められています。</p>	<p>滞在型観光客の増加への取り組み</p> <p>白河関の森公園のポテンシャルを活用した1日滞在できる機能、また数日楽しむことのできる宿泊型の体験などの可能性が見出せます。</p>

白河関の森公園に関する要望・課題

- 1 自然の豊かさを散策しながら感じ取れる公園整備**

白河関の森公園の美しい里山の風景や四季を通じた草花木の美しい自然のうつり変わりが感じられる公園づくりが求められています。


- 2 白河関の森公園でしか経験できない機会の創出**

キャンプ場やアスレチック場などハード面の整備と共に、自然体験、農業体験などのソフト面の両方を融合した関の森公園でしか体験できない機会を創出することが求められています。


- 3 白河の地産地消を体験する場と機会の提供**

白河ならではの美味しい食を堪能できる農家レストランなどの飲食施設、また、農業体験など同伴った地産地消の体験機会の提供で地域活性化も見込まれます。


- 4 白河関跡や奥の細道などの歴史的資産の活用**

隣接する白河関跡や奥の細道を始めとした歴史を感じることができ施設や機会の提供が求められています。


- 5 ささまざまな人が楽しみ交流する場としての公園利用**

関の森公園ならではお祭りやイベントなどを通じて、親子や世代を超えた交流拠点となることとが求められています。


- 6 誰もが白河関の森公園の整備に関われる仕組み**

地域を超えて幅広く、誰もが公園の整備に関わることができる仕組みづくり・コミュニティづくりが求められています。



基本構想策定の考え方

公園周辺も含めた「まちづくり」の視点

周辺のコンテント（林道、ダム、天狗山、夜景など）も考慮した「まちづくり」の視点が必要となります。

行政・地域住民と一緒に継続して育む公園

ソフト・ハード共に住民参加型で育める視点が必要となります。

世界に発信できる風景や仕組みのある公園

今後のプロモーションも踏まえた視点が求められています。

白河関の森公園の 将来像および 整備の方向性

公園整備のコンセプト

- 地域資源を活用した日本のトップランナーとしての公園整備
- 自然・遊び・教育を融合させた観光・交流拠点としての公園整備
- 産業創造（教育拠点）としての関の森公園の活用

白河関の森公園の将来像

四季を感じ一日楽しめる
白河関の森公園を
中心としたまちづくり

白河の地産地消を
体験する場
（育て、収穫し、食す）

白河関の森公園でしか
経験できない
自然体験・環境教育の場

さまざまな人が
参加し楽しめる
コミュニティ形成の場

白河の歴史を知り
体験する場としての
公園整備

将来像実現のためのソフト施策（案）

- ① 3世代交流イベント
マス釣り（手づかみ）・バーベキュー
- ② 白河の関を詠む歌会
過去の詩人を読み解く、全国の詩人による読み会
- ③ 白河の関・奥の細道を歩くイベント
周辺の歴史施設との連携
バーベキュー、キャンプ、相撲

- ④ 修学旅行・遠足・合宿
白河の関、虫の生体
- ⑤ 花見・紅葉まつり
季節ごとにイベントを開催
- ⑥ 地産地消・朝市
地元の食材を販売
- ⑦ 農業体験・農業民宿・グリーンツーリズム
地元の農家と協力した運営

将来像実現のためのハード施策（案）

- ① オーガニックカフェ、レストラン
地元の食材、旗宿の食材を活用
- ② 散策路・散策マップ
奥の細道、歴史探案、自然観察など
- ③ 四季を感じる自然・花ロード
昼だけでなく夜も歩ける散策路
- ④ 里山・植樹
自然を知り、育てる場
- ⑤ 展望台（バードウォッチング）
自然を観察できる場所
- ⑥ 自然型遊具・アスレチック施設・ツリーハウス
子供だけでなく大人も楽しめる遊具
- ⑦ 宿泊機能・温浴施設・グランピング・キャンプ場
自然を楽しみながら宿泊できる場
- ⑧ コワーキング（既存施設を活用）
ワーケーションなどで活用を検討

今後の取り組み課題

- (1) 白河全体を見据えた計画の検討
- ① 既存の公園との役割・機能分担
- ② 白河関の森公園の周辺地区の資源・財産の確認・整理
- ③ 白河市の名産品の有効活用策の可能性検討
- ④ 白河市の観光計画等、上位計画への提言
ほか

(2) 既存施設の有効活用策の検討

- ① 相撲道場、売店、レストラン
- ② 水車小屋
- ③ 故郷の家、江戸期の関所
- ④ ビジューアルハウス
- ⑤ 白河都市農村交流センター
ほか

(3) コミュニティビジネスとしての 事業可能性の検討

- ① 各種イベント
- ② オーガニックカフェ・レストラン
- ③ グリーンツーリズム
- ④ キャンプ・グランピング
ほか
- ⑤ ワーケーション

(4) まちづくりの実施・官民連携 による推進方策の検討

- ① まちづくりの実施主体・担い手の検討
- ② 官（白河市）側の役割
- ③ 民（企業）側の役割
ほか
- ④ 市民の役割

①若い世代が帰りたいくなる仕組みづくり

白河市で育った若い人達が、高校・大学進学等による転出後に地元に戻る環境づくりとして、公園の中で仕事ができるよう観光・産業創造の場づくりを進めます。

②教育産業の創造

住民も一緒になって参画できる仕組みを取り入れながら、「自然から学ぶ体験型の「教育産業」や、関の森公園を活用した新たなものづくりに関する教育プログラムを創出します。

白河関の森公園の 将来像および整備の方向性

憩う・集う・学ぶ・働く
を創造する

グロースカル
コモンズパーク

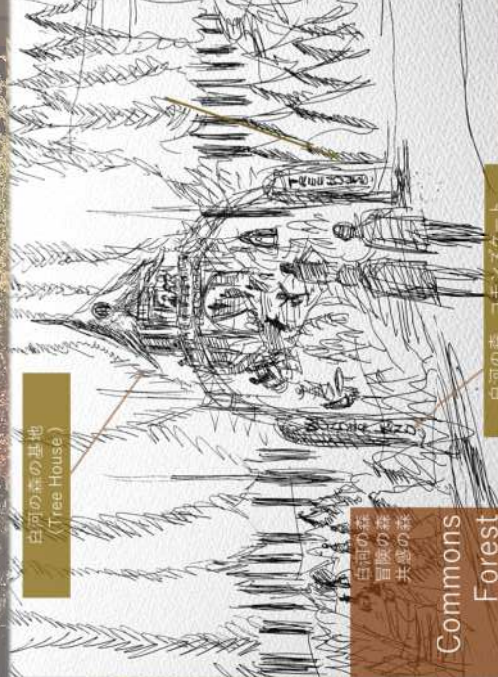
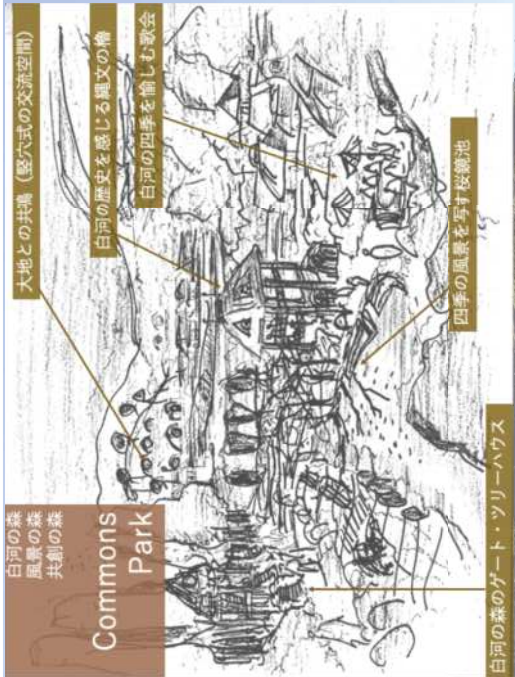
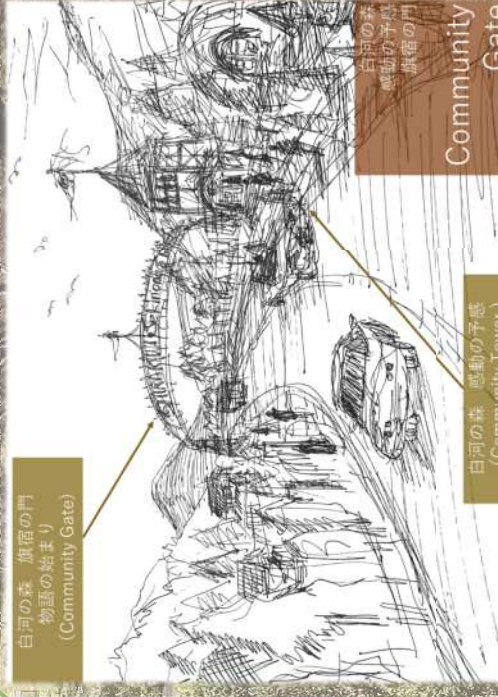
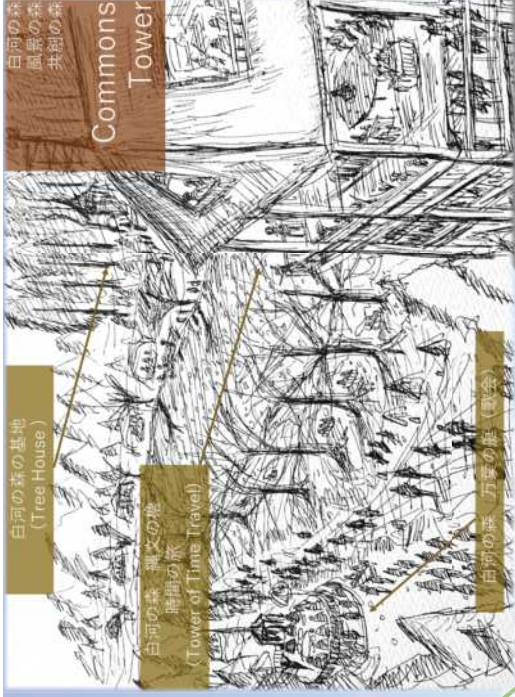
市民・行政・民間の地域協働による
持続可能な公園づくりを
地球的視野で進めて
いきます。

④コミュニティ 形成の場

公園利用者がコテージのよ
うな滞在型施設で長期滞在
可能な仕掛け、食やものを
くりなど地産地消のモノを
活用したプログラムづくり
など、「いずれこれに住み
たい」と思ってもらえるよ
うな公園計画を進め、交流
から定住へとつなげていき
ます。

人々が楽しみ、交流しながら里山や森を整備するプログラム、自然環境のすばらしさを次世代に継承するグリーンツーリズムプログラムなどを構築し、自然の魅力を活かした観光資源としての公園の整備・運営を図ります。

③観光資源化



「持続可能なまちづくりの核となる公園を目指して」



世界においては、持続可能な発展に関する教育（ESD）の流れの中で、市民が行政、企業と共に持続可能な社会の構築に向けた学びの場を共創していくことが求められています。

公園は長い歴史の中で、市民の憩いの場として発展し、都市における人と自然の接点を生み出す重要なプラットフォームとしての期待を帯びています。白河関の森公園は東北の玄関口である白河の関と共に、長年市民に愛され、日本有数の名所と

して発展してきましたが、園内においてその歴史的意味を再発見すると共に、隣接した白河の関と関の森公園との連携により、さらに白河市の未来において重要な位置になることが期待されています。白河関の森公園基本構想策定調査においては、こうした背景の中で、市民、行政、専門家など多様なステークホルダーの参画を得て、白河関の森公園の現状と課題、そして未来の方向性が議論されました。基本構想で導かれた50件を超えるアクションプログラムを基に住民と共に様々な交流の場を創出し、白河市の総合政策における観光プロモーション政策とも連動しながら、交流人口の増加と定住に向けた戦略的な施策を打ち出していくことが重要となっています。

白河関の森公園 基本構想策定委員会 委員長 風見 正三

「白河関の森公園基本構想策定委員 委員リスト」 *敬称略

委員長 風見 正三 宮城大学理事・副学長・教授

委員 伊藤 一伸 旗宿自治会 会長

大森 泰之 旗宿自治会 副会長

穂積 広 旗宿自治会 会計

斎藤 仁 白河関の森公園 園長

小坂井孝博 古関行政センター 所長

伊東 和雄 白河観光物産協会 主査

小松 裕子 元教育委員

渡辺 紀子 歴史的風致維持向上計画委員

那須 彩乃 未来の準備室 事務局員

畠山 里奈 元ICT支援員



白河市役所 観光課

本庁舎2階 〒961-8602 福島県白河市八幡小路7-1

電話番号：0248-22-1111 ファックス番号：0248-24-1844